武蔵野市市民活動推進委員会

平成30年度第５回委員会　議事要旨

日時：平成31年３月１日（金）

午前10時から正午

場所：武蔵野市役所813会議室

１　開会

２　議事

　①市民活動の促進と自律・自立に向けた支援の充実

■田中委員長

* 計画の各基本施策について、市として、達成状況をどのように自己評価しているかという点について、お知らせいただきたい。

■事務局

* 資料２、記載のとおり

■田中委員長

* 補助金という部分に力点がおかれた評価というところ。昨年度の議論について、参考として資料１をお配りしている

■竹内副委員長

* 改善点ということで報告いただいた件、効率化が図られたという点に力点がおかれているように思われるが、基本施策に照らして、どのように行ったのか

■市川委員

* 協働という点で、市民活動という部分で、どのように行ったかという部分をヒアリングしていただきたい。管理的な部分だけではなく。

■事務局

* 来年度の調査では、いただいたご意見を踏まえて調査表を変えたい。

■千種委員

* なかなか難しいところではある。実施した事業については必ず振り返りを行い、事業の必要性について精査し、状況により廃止ということも考えている。

■田中委員長

* ボランティアセンターからの紹介で毎年数名のボランティアを紹介していただいている。間接的な自立への支援だと思う。

■高橋委員

* 子育てフェスティバルは、各団体から実行委員会へ出ている。その回数が減ったことは負担減へとつながった。当日も、楽しめたので充実感があったと思う。

■坂本委員

* 武蔵野プレイスとしては各団体へのステージごとの支援ということで、自立に向けた支援を行っている。
* 計画に企業の視点を入れたという部分で、資金の調達等について今後も重点的に行っていきたい。

■市川委員

* 財政的な支援という点はネックになりがち。従来の補助金等ではなく、企業等とのマッチングといった形のものがあると良い。
* ボランティアを探すときに、サブリーダーというところに思い至らなかった。例えば、ボランティアセンターに依頼したときにサブリーダーも含めてつなげられると良い。地域で育ったボランティア等の活躍の場ともなる。
* 青少協で育成している人材が青少協の中だけでまわっている状況ではなく、その人たちが広く市民活動へ繋がると幅が広がる。

■大上委員

* コミュニティ協議会は自主三原則をうたっている手前、自立している体ではある。
* 研修や講演会等の情報提供を行っているところ。
* 市以外には相談することはない。財政的な支援は十分にしてもらっている。
* コミセンにコーディネート機能を期待されているが、情報は集まっていてもコミセン側にその意識がなかなかない。最初から意識が高いということは必須ではなく、意識づけや学びといった段階があればよい。

■田中委員長

* 未来塾について市の評価を教えてほしい。

■綿貫委員

* コミュニティ研究連絡会と市の共催で行っており、協議会にもお声掛けしている。一般にも募集しており、市職員の研修としても位置付けている。
* 平成29年度は基礎編として実施。参加者同士のつながりを重視している。
* 平成30年度に実施した第５期はこれまでの修了生をメインターゲットに、一般募集もして実施した。

・　情報提供等の支援を行っていければと考えている。

■田中委員長

* 未来塾に参加した立場からご意見はあるか。

■市川委員

* コミセンだけでない、市の職員も入っている、ということは大きかった。
* 長期計画の市民ファシリテーターとして起用されたことで、そこで興味をもった人が未来塾に参加した。その参加者が市民ファシリテーターになるという流れができていることは非常に大きい。そのあたりを行政も認識して、ここが入口ということをPRしていってほしい。

■田中委員長

* この委員会で提案した「市民と行政が一緒に地域の課題を総合的に学ぶ」（改訂計画18頁）ことが、ひとつ具現化した形ともいえる。いい芽がでているところなので、ここから広がっていけるとよい。

■市川委員

* 学びだけということが、これまで多かったように思う。活動にいかにつなげるか、ということが重要。その部分のサポートがない。行政に作ってほしい。

■竹内副委員長

* 評価としては、できてきている面を記載することは重要。
* 市を超えて活動して、という部分も評価に書けるとよい。

■田中委員長

* 本日の議論の中で出た「市民活動に関する学びの機会の提供」に該当する部分を、資料３に追記してほしい。
* 市や教育委員会の事業で、事業一覧に記載のないものが多くあるように思う。そういった部分も入れていけるとよい。

■大上委員

* 自己評価（資料２）の中で、資金調達の重要性を言いながら、常態化しないようにというのはどういうことか

■事務局

・　補助金だけに頼らず、市民からの寄付を募るなどして活動につなげてほしいと考えている。

■市川委員

* 補助金のイメージがひとつに固まっていることでわかりづらいのかもしれない

②基本施策３：市民活動の場の活用促進

■田中委員長

* 武蔵野プレイスが基本施策３の柱になっている。
* 自己評価や委員としての意見をいただきたい。

■坂本委員

* 団体の登録数としては安定的に推移している。
* これまで、生涯学習という観点で、講演等を行ってきた。著名人であれば多くの方に参加いただけるが、そのあとの活動につながりにくい。講義のあとにマッチングを行う形に変えたところ、３Fに来る人が増えた。

■事務局

* 参加者と講師の懇談会やマッチングイベントを開催した点が変更点として挙げられる。

■大上委員

* 多様な活動の場の情報提供としては、コミュニティ協議会活動補助事業も該当しているのかと今思った。

■竹内副委員長

* 武蔵野プレイスのカフェでの事業展開や、創業支援施設MIDOLINO\_なども該当するだろう。

■大上委員

* 西部コミセンでは地域社協などの地域の団体が主催する事業に実施場所を提供している。

■田中委員長

* 創業支援施設の情報も含めて、３－２のような情報を一括して提供されると使いやすくなるのではないか。

■竹内副委員長

* 成蹊大学では場所を探している人に提供しているスペースがあるが、市民にあまり周知されていないと感じている。

　③課題解決のための「連携と協働」の推進

■市川委員

* 地域企業との協働の実績が少ないという点。多摩コミュニティシンポジウムというイベントでのことだが、横浜での事例は進んでいると思う。色々なところの事例を聞いてもらうと良い。

■竹内副委員長

* 小さなことでも、実はやっているという実績はあるが、洗い出しが済んでいない部分があるのではないか。

■田中委員長

* 武蔵野青年会議所はどうか。

■千種委員

* 武蔵野青年会議所や武蔵野商工会議所でやっていても、オープンにはしているが、周知できていないという部分はある。
* 各会社でやっていること、という感じかもしれない。そういう情報を出していくと、協働につながっていくかもしれない。

■竹内副委員長

* 一緒にやらなくても、市が企業の活動を認識するということも協働になるのではないか。

■市川委員

* 市内でやっていても、行政としては洗い出しできない部分もあると思う。
* 市民の中で、そういった活動を周知するようなことができると、広がりが生まれるかもしれない。

■田中委員長

* 企業市民、企業の市民活動という点は現計画にはない。このあたりをどのように位置付けるかという点は次期計画で議論できると良い。

■千種委員

* 各企業や、ライオンズクラブやロータリークラブといった類の団体が行っている活動は、各々のみで完結している部分がある。

■大上委員

* 市民から協働の相談があった場合の窓口はどこか。

■事務局

* 事業内容によって異なる。例えば、高齢者への支援が目的の事業についてであれば高齢者支援課が窓口となる。

■坂本委員

* 個人としてのボランティアなのか、団体を作ったほうがよいのか、行政と一緒に活動したほうが良いのか、様々ある。
* 窓口によって対応はまちまち。

■田中委員長

* どういった問合せがあったのか、３者で随時共有していく必要ある。

■竹内副委員長

* 生涯教育を例にすると、市民活動とつながるところもある。
* 市民活動推進課が発信しているフェイスブックについて、「いいね」をしている人が少ない。毎回気にしている。せめて庁内で、お互いに協力するといいのではないか。

■市川委員

* 市民活動の相談に行く場所は武蔵野プレイスだと思うが、相談しにくい雰囲気がある。

■田中委員長

* ルールに則った対応という部分が強く出ているように感じる。

■市川委員

* 行政が関与している窓口全般が固いように感じる。

■田中委員長

* 庁内の連携、他課との連携について、現行の計画に書かれているのか、それとも次期計画に記載すべきなのか。

■綿貫委員

* 他課との連携はとれていると考えている。

３　事務連絡

４　閉会